

野鳥の生息状況を調査

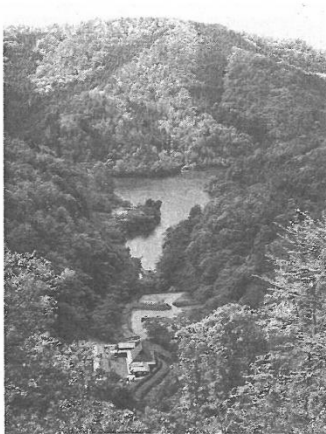
ささやまの森公園 保全再生プロジェクト始動

県立ささやまの森公園（丹波篠山市川原）とその指定管理者、兵庫丹波の森協会は、丹波地域屈指の野鳥の生息地として知られる同公園で、多種多様な野鳥が生息している環境を守っていくこと、高校生と自然愛好家による保全再生プロジェクトをスタートさせる。255種にも及ぶ広大な園内で数カ所の定点観察ポイントを設け、6～9月にかけて毎月1回、鳥類の生息状況と生息環境のフィールド調査を実施する。調査に入る前段階として、プロジェクトの意義や調査方法を共有し、環境保全の大切さを学ぶための講義と実習を25日午前10時～午後3時、同公園で開く。参加者を募集している。

高校生や愛好家の参加を

講義は、野鳥や景観生態などに詳しい京都府立大学の教授が、23日を最初に、7月7日、8月18日、9月8日に鳥類の調査を、午後からは多くの鳥類が餌としている水生生物を中心に調べる。その後、屋外で野鳥同プロジェクトに携わるの観察と調査の方法を学ぶ現地研修を実施する。篠山東雲高校自然科学部の顧問で、同校理科教師

25日 専門家が講義と研修



野鳥の生息調査をメインとした保全再生プロジェクトの舞台となるささやまの森公園＝丹波篠山市川原で（提供）

でもある。教諭らが指導者となり、午前中に鳥類の調査を、午後からは多くの鳥類が餌としている水生生物を中心に調べる。調査データはまとめて、10月26日に発表と意見交換を行う。同公園では、これまでにアカシヨウビン（カワセミ科）やサンコウチョウ（カササギヒタキ科）、サンバ（タカ科）などの希少種をはじめとする41種の野鳥が確認されている。公園長は、「施設内には多彩な環境と豊かな自然が残っているから、いろんな野鳥が生息できているが、これを裏付ける明確なデータはな

2024年5月19日
丹波新聞

い。どんな鳥がどのような環境でくらしているのかを調査することで、園内の生態系や生物多様性が見えてくるのでは」と期待し、「データを集め、まとめることで、将来にわたって公園の良好な環境を保全していく上で役に立つ」と意義を語る。

多年度にわたって取り組む継続事業とする考え。次年度は、今回の調査で得られたデータを基に、野鳥の生息に適した森づくりを進めたり、環境を保全するなどし、将来は希少植物の保全などにも着手する構想を描いている。

調査への参加は随時受け付けている。参加無料。定員は各回20人程度。同プロジェクトは、同協会が実施している小学生対象の「縄文の森塾」の発展型として行つもので、丹波県民局が進めている「たんばユース躍動プロジェクト」事業を活用して実施する。

問い合わせや申し込みは、同公園（079・557・0045）、同協会（0795・73・09可）。

